

# 令和7年度 教育・民生常任委員会 行政視察報告書

## 1. 視察期間

令和7年10月14日（火）～10月15日（水）

## 2. 視察場所・項目 ①岐阜県美濃加茂市

・教育と福祉の連携（重層的支援体制整備事業）について

## ②愛知県小牧市

・こまきこども未来館について

## 3. 参加委員

委員長	齊藤哲	副委員長	中村理香子
委員	岡本善徳	委員	宝新
委員	吉村啓治	委員	毎田潤子
委員	広田尚大		

## ■岐阜県美濃加茂市：教育と福祉の連携（重層的支援体制整備事業）について

### ①市 勢

1. 人 口	57,587 人	} R7年9月1日現在
2. 世帯数	24,740 世帯	
3. 面 積	74.81 km <sup>2</sup>	
4. 予算額	266 億 3,000 万円（令和7年度一般会計当初予算）	
5. 議員数	16 人（定数 16 人）	

### ②事業概要

美濃加茂市では、平成31年度に教育センターとの間で支援会議の仕組みを使った連携をし、他機関協働の重要性を共有していた。そういった中で令和2年度に支援会議の活用による教育と福祉の連携を開始。令和3年度から令和5年度では「重層的支援体制整備事業への移行準備事業」の取組の一つとして、家族を支える連携会議（支援会議）により、教育と福祉の連携を強化。令和6年度4月より重層的支援体制整備事業を開始した。

児童生徒を支える教員は一人ではないことを伝え、学校では見えてこない家庭内で抱える問題等を共有し、先生とチームとなって両輪の形で家庭に働きかけている。

#### ※家族を支える連携会議（支援会議）

…教育と福祉の連携を推進するため、学校の先生その他、福祉・保健・医療の専門の人が集まり、児童・生徒および保護者が「より良く生きる」ために、何ができるか、どのように力になることができるかを、それぞれの専門性や支援のノウハウを持ち寄り、一緒に考える。

個人情報共有の同意が「なく」ても、ケースカンファレンス等を開催し、現状の共有、課題の抽出、支援方針の検討、役割分担を行うことができるため、本人に困り感はないけれど「気になる」「モヤモヤする」「このままでいいのかな」という段階から関わることができる。

学校での気づきを外に出し、気づきが繋がるルートの確保や整備する役割を担っている。

また、支援会議の特徴の一つとして、これから関係するであろう機関（小学校から中学校等）へ情報共有することで、家庭への対応も変わってくることも挙げられる。

教育と福祉の連携として、誰もが安心して暮らすことができる「生涯支援」を目的とした「発達支援センター」を設置した。美濃加茂市の「発達支援センター」は、発達障がい等を限定にした支援センターではなく、発達の語源でもある「包みを解いていく」という理念を大切に、市民一人ひとりの可能性と魅力が最大限に引き出されるように生涯を支えていくという生涯支援をコンセプトに掲げている。

また、児童生徒が過ごす家族の困り事への支援を通じて、家族と学校の連携をさらに強化していくための架け橋のような役割を担う「スクールソーシャルワーク機能」を整備することとした。

#### ◆主な質疑応答

Q. 学校へのヒアリングはどのように実施したか。

A. 重層的支援体制整備事業委託業者とともに学校へ出向き、対面で学校の先生に困り感をきいた。その結果、保護者からの相談は学校へ来る一方で行政や福祉が学校の中に当たり前にある文化ではなく、もっと行政や福祉が学校に入ってきてほしいということが分かった。そこで、試験的に学校へ出向いて相談会を実施したり就学時健診で福祉課のブースを構えたりするなどの取組を行っている。

Q. 医療に繋がるまでの間にできることは。

A. 医療の力を借りるのは手段の一つで、その人の安心感を作っていくことが大事。支援というよりも、一緒に営み・関わりを作る感覚で向き合い、その人の興味関心のあることを探し、タグ付けし、地域にどう繋ぎ合わせていくかを意識するよう心掛けている。

Q. 事業開始に至ったきっかけは。

A. 生活困窮者自立支援がきっかけであり、様々な生きづらさを抱えた人たちが支援対象であることをPRしたところ、多くの相談が来た。そこで他機関と連携する必要性が分かり、他機関協働事業を実施した。

Q. 先生の負担軽減により、休職状況の改善等の事例はあるか。

A. 教育と福祉の連携によって家庭の事情をきけるようになり、教員の保護者に対するまなざしが変わった。保護者との関係も良くなり、結果として子どもたちが元気になってきた、不登校が減ったとの報告が、先生から県へあったそう。

Q. 学校との随時の連絡はどのように行っているか。

A. 基本的には電話。ほかには、夕方の構内カンファレンスに出席し情報共有している。

Q. 伝えにくいことを保護者に伝える際のアプローチ方法は。

A. 関係性が変わると提案を受け入れる側の身構えが変わってくるため、いかに安心安全な環境を作るか、また、中長期的な視点で、今後提案を受けられるかもしれない関係をいかに作っておくかを先生に助言している。



## ■愛知県小牧市:こまきこども未来館について

### ①市 勢

1. 人 口	148,485 人	} R7年9月1日現在
2. 世帯数	71,367 世帯	
3. 面 積	62.81 km <sup>2</sup>	
4. 予算額	703 億 5,600 万円 (令和7年度一般会計当初予算)	
5. 議員数	23 人 (定数 25 人)	

### ②事業概要

小牧市では、こどもや子育て支援に対するニーズが多様化する中、市制 60 周年を迎えたのを機に、小牧市の特徴である「子育て支援が充実している」姿を一層高め、「こどもを中心に世代を越えて、市民がつながり、支え合う、住みよいまち」を小牧市全体で目指していくことを宣言し、市内外に発信していくため、「こども夢・チャレンジ No.1 都市宣言」を制定した。

児童館の狭隘化やテナントビルの空床問題の深刻化を受け、「こども夢・チャレンジ No.1 都市宣言」の基幹となるような施設として、こまきこども未来館を整備することとした。

こまきこども未来館は、さまざまな「遊び」や「体験」を通じて楽しみながらそれぞれの「学び」を見つけることができる中央児童館で、「未来リテラシーを育む」をコンセプトにこどもたちの未来を切り拓く力を育む施設を目指している。

### ●施設概要

再開発ビル「ラピオ」内、2 階、3 階、4 階部分に位置する。

延床面積 5,529 m<sup>2</sup>

交流ひろば (2 階) 620.12 m<sup>2</sup>、 遊びひろば (2~3 階) 1753.95 m<sup>2</sup>

体験ひろば (3 階) 523.83 m<sup>2</sup>、 ニコニコひろば (4 階) 667.43 m<sup>2</sup>、

児遊ひろば 353.12 m<sup>2</sup> (4 階)

### ●こまきこども未来館でできること

- ・遊びひろば
- …施設のシンボルであるシンボルツリー (大型ネット遊具) や、アスレチック、ボルダリング、ふわふわ雲などのほか、最新のデジタル技術を体験できるデジタルラボなどがある。

- ・体験ひろば

- …学校や家庭ではできないあそび・まなび・交流の場を目指し、様々な講座やイベント（工作、PC・タブレット、ドローン体験、ワークショップ等）を開催している。

- ・交流ひろば

- …世代を越えた交流を楽しめるフロア。すべての年代で利用することができる。すべてのフロアでこどもの意見をきくことを大事にしているが、中高生の利用が多い交流ひろばでは特に意見聴取を大切にしており、こどもたちの意見に丁寧に回答したり、高頻度でレイアウトを変えたりしている。

（ビリヤード、卓球、3Dプリンター、ボードゲーム、乳幼児エリア、中高生限定講座、有料貸しスタジオ等）

- ・ニコニコひろば

- …未就学児とその保護者に入場を限定しており、小さなこどもも安心して利用することができる。フロアには滑り台などの室内遊具やボルダリング、マット遊びなどの身体を動かして遊ぶコーナーのほかにも、ごっこ遊び、AR砂場などのコーナーがある。

- ・児遊ひろば

- …カードゲームやボードゲーム、貸出おもちゃなど、親子や友達と一緒にゆったり過ごせる。

- ・アリーナ

- …ドッジボール、バスケットボール、バドミントンなどができる。

## ●市民、企業、大学との連携

体験ひろばで開催される講座等の一部はサポーター（個人・企業ボランティア）によって開催されており、企業にとってもこどもの声をきく良い機会となっている。そのほかにも、材料の提供やボードゲームの試作品貸出しなども行われている。

また、近隣の大学とデジタルコンテンツ等制作に係る連携・協力に関する協定を締結し、プロジェクションマッピングやデジタルラボにおけるゲーム、デジタルサイネージなどのコンテンツを整備している。

## ◆主な質疑応答

Q. えほん図書館及び子育て世代包括支援センター、その他関連部署との連携について。

A. えほん図書館とは月に1回程度、コラボイベントとして未来館内にて読み聞かせなどを開催し、子育て世代包括支援センターへは情報提供等、必要に応じて支援に繋げている。不登校の児童の居場所づくりにも取り組んでおり、学校と連携を進めている。

Q. 各フロアの配置等、構造上意識した点は。

A. 基本構想から設計、運営に至るまで、複数回（保護者・中高生・有識者）のワークショップを開催し、様々な世代の市民や有識者から意見を聞いた中で、こどもの年齢によって動きが異なるため、年齢別にエリアを区切ることを想定していた。えほん図書館がすでに4階に整備されていたため4階には未就学児、3階には最も多く来館が見込まれる小学生、2階には中高生を対象としたエリアを整備した。

Q. 子育て世代や子どもへの周知方法は。

A. 学校でチラシを配布している。また、子育て世代包括支援センターで母子手帳を受け取る際に、実際に子どもたちがこども未来館で遊ぶ様子が見えることも子育て世代への認知度アップに繋がっていると考えている。

Q. 市職員と事業者の役割分担は。また、専門人材の在籍状況は。

A. 教員、保育士、社会福祉士いずれかの資格を持つ児童厚生員が配置されており、主に館内全体の催しの企画や、館内のコンテンツの入れ替え（利用する年齢に合わせて午前と午後で入れ替え等）などを行っている。その中で、より柔軟な発想や豊富な人材を活用するよう講座開催業務及び受付業務を委託しているが、こどもと関わりを持つという基本的な部分は両者同じである。

音楽やボードゲーム、工作を得意とする職員が常駐しているほか、一部の講座は外部講師やサポーターに依頼して開催している。



※ 本報告書は、美濃加茂市、小牧市よりご提供いただいた資料及びそれぞれが管理されているホームページ等の情報を基に作成しています